

淑女検定

☑ チャレンジテーマ ナンタケットバスケット

時間をかけて手で編んでいくナンタケットバスケット。生まれはボストン郊外の大西洋に浮かぶナンタケット島。かごバッグ界のエルメスとも称される優美さで、社交界に持っている伝統工芸品バスケットとして愛されている。

問題 **1** バスケットのふたの飾りに、よくクジラが登場する。その理由とは？

- A. 島の形がクジラのようなから
- B. 捕鯨で栄えた島だから
- C. 島の別名がホエールだから
- D. ホエールという偉人がいたから



問題 **2** 主にどんな材料で編んでいく？

- A. 葡萄(ぶどう) B. 竹
- C. 籐(とう) D. 麻



問題 **3** 内側の底板には何が貼り付けてある？

- A. 硬貨 B. お札 C. 作者の写真 D. 名前シール



SBS学苑
パルシェ校

今月の
先生



【ナンタケットバスケット】講師

村田 尚香 むらた なおか

日本ナンタケットバスケット協会インストラクター
アメリカ東海岸の小さな島で生まれた伝統工芸品ナンタケットバスケットを制作。教室は大人気で現在はキャンセル待ち

SBS学苑パルシェ校
INFORMATION

7/22(日) 10:00~11:30

月曜日が楽しくなる
幸せスイッチ

講師/前野マドカ(慶應義塾大学大学院SDM研究所)

受講料/2,808円(管理運営費込)

幸福学の研究者による、幸せになるための四つの力を高める方法を紹介します。

【お問い合わせ・お申し込み】
Tel.054-253-1221

正解 & 解説

問題 **1** → 正解 **B**

17~18世紀ごろ、ナンタケット島は世界屈指の捕鯨基地として栄えた。その名残でバスケットの飾りには象牙で作ったクジラがよく用いられる。ナンタケットバスケットの発祥は、クジラの油を入れる樽(たる)を作る樽職人が、余った時間がかごを作ったのが始まり。やがて島の捕鯨は衰退し、島の存在も薄くなったが、20世紀になると避暑地として再び栄え、島にやって来る富裕層を中心にバスケットが広まった。

問題 **2** → 正解 **C**

一見、細い竹のようにも見えるが、籐(とう)を細く切って編み上げている。細い籐の材料をさらにはさみで切るが、ここが難所。カーブに合わせてミリ単位で細さを変える。「細かく計算されているようで、すべて感覚なんです。編み図があるわけでもありません」と村田先生。繊細で乾燥すると切れるため、水を付けながら編み進める。籐のほかにはオーク、チェリー、メイプル、黒檀、紫檀などの高級材料が使われる。

問題 **3** → 正解 **A**

底板の真ん中には幸せを呼ぶとされる1セント硬貨「ペニー」を貼る伝統がある。アメリカではペニーを拾うと縁起がいいとされており、特に時間をかけて初めて作った作品「ファーストバスケット」の底板には「ラッキーペニー」を貼る伝統がある。かご作りには大工道具を使うことが多く、男性の大きな手の方が編みやすい。本場ボストンでは「奥さんのために」とバスケットを手作りする男性もいるそうだ。